



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

---

CITATION:

通信. 天界 1928, 8(88): 334-336

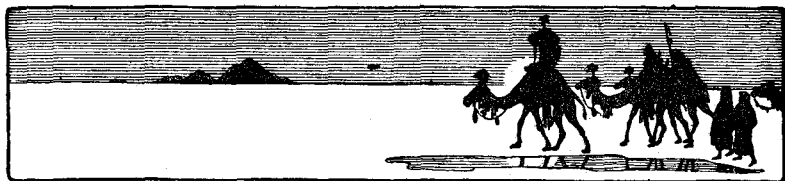
ISSUE DATE:

1928-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161307>

RIGHT:



## 水澤だより

四月末から東京及び京都へ出かけてゐた川崎技師は、木村所長の出発の日がにはかに早くなつた爲、五月三日朝急に歸つて來た。

木村所長は五月五日の盛岡高等農林の廿五週年紀念の式に列席する爲に出て行つたが、すぐひき返して午後の汽車で歸つた。午後の三時から觀測所の廣い芝生の上で、所長渡歐の送別會を開いた。送る者はほんの内輪の者だけで四十名足らずであつたけれど、その代り義理で出席するさういふ様な水臭い者は一人も居なかつたので、ほんさに送別會らしい會であつた。

つた。

五月六日 朝九時三十四分發の汽車で所長は水澤を立つた。しばらく東京に滞在、十五日MM汽船會社のアトス丸で神戸出帆、來月廿二日頃マルセイユ着、七月四日の午後から開かれるライデンでの天文同盟の會合に出席して、その前後、歐洲各國を巡歴し、アメリカを経て十月末歸朝の豫定である。

五月七日は鳥畑技手の一週忌にあたるので早朝所員そろつて墓參した。白木の墓標が一年間の風雨にさらされてやゝ黒すんでゐた。

## 同志社支部より

……『一度報告を寄來して下さい。それは支部の義務ですよ』と山本先生から耳の痛い電話を頂いて大あわてで支部の人々の日記をしらべてもらつたりなどしてやつと左に一年分の報告を書き上げました。勿論不備なものです。但し此からは正確な記録を書き残しますから今度はこれでお願いします。同時に總ての支部がその活動狀態を示す情報を續々、天界紙上で見せて欲しいとの希望があつたかましい願ひであつたらお願いします……

幹事 飯 義壽

◎「宇宙の驚異」鑑賞會 は昨年六月五

日に計劃され山本先生に解説講演をお願いする筈でしたが豫期せぬ故障の爲二十二日に延期し觀衆は約七百を收容し得る同志社公會堂に入り切れなかつた様でした。

◎公開觀測會 は右の會後にも行ひその他屢々行ひました。舊同志社天文臺に備付けてあつた英國ブラウニング會社製四時半の屈折鏡（……200倍、150倍、100倍の接眼レンズ、及び地上用に使へる50倍の接眼レンズを有す）は私達が殆ど專用してゐます。特に太陽觀測用の屈折裝置は中村さんも「日本でこれの附いてゐ

るのはあまりない」と云つて居られたが私達の自慢の機械です。今学期は六月廿六日のウイネツク彗星觀望及び六月廿九日の月蝕觀望の公開が特筆すべき多數の參會者と成功を収め得たものでした。

◎講演會 十二月三日午後三時から神學館講堂で支部例會を開き中村要氏に「反射望遠鏡について」なる講演會を願ひました。此ほか中村氏には九月の下旬にも「天文學と望遠鏡」といふ講演を承り荒木俊馬氏や山本先生にも講演を願つた記憶があるのですが日時が明瞭でないので略します。

◎秋の觀望會も四回以上公開いたしました。特に十一月十日の水星の太陽面通過は神學館前の廣場に機械を裝置し數百名の教師及學生に見せる事が出来ました。150倍の接眼レンズを通して小豆位な水星が大黒點群の傍を過ぎる景色は素敵でした。京大の天文臺では見えなかつたといふ第一接觸も茲では完全に見えました。然し「これかしら」と思つてゐる中にドンドン入つて來たので時計を見させる豫猶のなかつたのは残念でした。尙十月二十三日には宮崎縣の高等女學校の修學旅行團の爲めに水星を見せて簡単な話をしました。引率の荒瀬教諭が同志社女學校出身で學生時代に見た星の美しさと思議さを教へ子にも知らせたいとの親切からです。

◎京大天文臺見學訪問 これも毎學期一二回は必ず行ふことになつてゐる同志社支部の行事の一つです。明瞭な日付の記憶されてゐるものとしては十一月二日夕約十五名の者が中村さんの好意で同氏愛用の六時半及十三時の鏡で二重星や星團などを見せて頂きました。木星の衛星

の一つが木星上に影を投げてゐる景色も此日初めて見せて頂きました。此催は大底支部員の親睦會を兼ねたもので觀望のあとでは天文臺の廣間で茶話會をして歸ります。

◎新會員募集 一月になつてから十七名の新しい會員を迎へ得ました。高田君が書いてくれた宣傳ビラにはこんな文句がありました『……騒擾の巷に立つて時に想はるゝは然しながらかの安らかな息吹きのみるさゝ「永遠」の棲まふ蒼穹の彼方の國である……。深夜の靜觀の數時間、吾々は之を心あくなき至樂の時として樂しみ得ることを喜ぶに止めたい……時は春である、ピタゴラスの徒の聞きされたといふ天體の運行の美しい音樂は春を得て一入美しいであらう。望むらくは此機會に歩を吾々の觀測臺に曲げて、試みに一宵を共にせられんことを……』

◎講演會 二月十四日午後三時神學館に、山本博士の御出張を乞ふて「エンケ彗星について」なるお話を願ひました。同日夕並にその前後の實地觀望は成功しませんでした。尙三月十五日夕には我々新入會者のために京大天文臺訪問を行ひ新着の十二時の大反射鏡でオリオン大星雲や海王星を見せて頂き。あとで中村氏の反射鏡の製作實況を見學させて頂いた事は天界に出てゐる同氏の論文を讀む上に大變參考になりました。

◎新學期となり「大遊星新に發見さる」といふ風なニュースがみんなの注意を引いてゐる五月八日午後三時から、山本博士に願つて同志社公會堂に大講演會を開きました。他の催も重つたので聴衆は約200位でしたが、何れも熱心に此ニュースの意義及經過について承はり大變得るさ

ころがありました、講演の筆記は五月十五日號の同志社新聞に出るから略しますが、今學期は更に何等かの催をして、天文學の研究と天文趣味の普及の爲めに層

一層進出したく思つて居ります。諸兄の後援と活動を祈りつゝ不完全ながら此報告の筆を擱きます。(1928. 5. 10)

## 星の友より

流星觀測のおすすめをいただき有難う御座ぬました。私の先日のご報告が貧弱であるにもかかわらず、紙上にまでおのせ下さいまして有難う御座ぬました。あの翌日もオリオン座から飛ぶ一等星の流星を見たので御座ぬますが今手元にそのノートの無いのを残念に存じます、實は私幸に今年第八高等學校に入學いたし名古屋に参りましたもので御座ぬます。初めての御手紙に色々失禮なことをお書きいたすことをお許し下さい。先生をおしたひ申す私の心を、私の星に對するあこがれが左様させるので御座います。

小學時代の星に對する不思議さと中學時代の星に對する信仰とでも申すことの出来る感じから星に親しんで参りました母校東京府立第五中學校には星の會などがありました關係上、いよいよ星に親しんで参つたことで御座います。觀測のために學校で夜をあかしたことも御座います。そんな風に今では星が僕の大切な大切な友達になつてしまひました。

先生の御本を盛んに讀んだことで御座ぬました。先生のあの趣味のある御本によつて僕はどんなに一心になつたことで

せうか。

四月から私はこの名古屋の學校の寮に生活する身となり、自由に觀測いたす時を有しませんが、私から天文をはなさないやうに致して居り、又同室の人々(六人)に天文同好者を作らうと努力いたして居ります。天界を常に机の上において他の人々に自由に見ていただいて居ります。それで近頃では夜、つかれた時など空をながめ星に親しめられる様になりました。夜、床の中から見える星について、僕がポツリポツリ話す話を、聞いてくれる相手も二人ほど得られたことで御座ぬます。

そして散歩に出る時など三人又は四人で流星に注意いたして居ります。たゞへ満足な御報告が出来ませんでも僕等は出来るだけ努力いたし、又私は天文同好者をこの八高に得るやう努力いたす考へで御座います。どうぞ今後もよろしく御助力をいただかんことをお願いします。突然お手紙を差し上げました失禮をお許し下さいませ。

四月二十二日

村地孝一

## 彙報

[天界] 第7巻總目次及び索引は近々に出します。決して忘れてゐるのではなく、目下多忙なものですから失禮しました。(編輯) 來る八月一日から四日まで京都帝國大學の夏期講演會に山本一清教授の講演「古代ユダヤ文學に表はれたる天文思想」がある。聽講希望者は大學庶務課へ申込まれたし。